

展示室1 イギリス絵画—油彩と水彩



ジョン・ロバート・カズンズ
《サヴォワ地方、サランシュ附近のアルプス渓谷》

島国であるイギリスでは、大陸の影響を受けながら独自の美術が展開しました。ホガース、レイノルズらが手がけた王侯貴族の肖像画、サンドビー、カズンズらの国内外の自然や建造物を描きとめた風景画が、18世紀のイギリス絵画を彩ります。油彩の習作として扱われていた水彩画ですが、その特色を生かした诗情豊かな風景表現が好まれ、イギリスにおいて油彩画と並ぶ地位を獲得しました。

19世紀にはイギリス風景画家の二大巨頭、ターナーとコンスタブルが活躍し、油彩・水彩の両方で多くの傑作を遺しました。彼らの影響はイギリスにとどまらず、印象派など大陸の新動向に啓示を与えています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745-46頃	油彩・キャンバス
ポール・サンドビー	ウォーリック城シーザー塔	1778-82	水彩、インク・紙
ジョン・ロバート・カズンズ	サヴォワ地方、サランシュ附近のアルプス渓谷		水彩・紙
ジョン・ヴァーレー	ポントシスリット・アクアダクト	1826	水彩・紙
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
サー・トマス・ローレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790年代初頭	油彩・キャンバス
トマス・ガーティン	エクセター大聖堂	1798頃	水彩・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	コニストンの荒地	1797頃	水彩、鉛筆・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
ピーター・デ・ウィント	ウィットビー		水彩・紙
ジョン・ラスキン	オーヴェルニュの丘		鉛筆、ホワイトボディカラー・紙
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	アヴァロンにおけるアーサー王の眠り	1894	グワッシュ・紙
アルバート・グッドウィン	エンゲルベルク		ペン、水彩・紙 佐藤克也氏寄贈

展示室2 日本近代美術の黎明期



亀井竹二郎
《四日市駅 燈明台》

近代の始まり、幕末から明治にかけて、日本国内に流入した西洋文明—美術の分野でも、銅版画や石版画、写真、油彩画が相次いで伝えられ、ものの見方や表現方法、画材などに関心をもち、新しい技術の獲得を試みる画家があらわれました。幕末に来日したワグマンに師事した高橋由一、横浜で西洋風な描写を独学した五姓田芳柳、そのもとで学んだ山本芳翠、写真家・横山松三郎に師事した亀井至一、竹二郎兄弟、日本初の美術学校といえる工部美術学校で学んだ浅井忠一。

クリストファー・ドレッサーが来日した頃、新しい表現や技術の獲得をめざしてそれぞれ奮闘していたであろう画家たちの作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
チャールズ・ワグマン	ふたりの日本女性		水彩・紙
チャールズ・ワグマン	座る日本女性		水彩・紙
五姓田義松	婦人像	1871(明治4)頃	油彩・キャンバス
高橋由一	風景(鳥海山)	1880年代	油彩・キャンバス
山本芳翠	園田銚像	1885(明治18)	油彩・キャンバス
五姓田義松	園田御令嬢肖像	1902(明治35)	コンテ・紙

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
浅井 忠	少女の顔	1878 (明治 11)	木炭・紙	
浅井 忠	綾瀬川付近	1885 (明治 18)	墨・紙	
五姓田芳柳	風俗図屏風		水彩・紙 / 六曲一隻屏風	
五百城文哉	真如堂図	1897 (明治 30)	油彩・紙	
亀井竹二郎	〈石版『懐古東海道五十三駅真景』油彩原画〉より12点 品川駅 自濱川上流望海面、川崎駅 六合川眺望、神奈川駅、戸塚駅、 興津駅 清見寺三保松原遠望、藤枝駅、二川駅 岩谷観音、 岡崎駅 矢矧橋、四日市駅 燈明台、亀山駅 城内ノ図、 土山駅 松ノ尾川、水口駅 旧城内	1877 - 78 (明治 10 - 11)	油彩・紙	
亀井竹二郎	蜷川与志肖像	1877 (明治 10)	油彩・キャンパス	寄託作品
亀井至一	東京上野之景	1874 (明治 7)	油彩・キャンパス	寄託作品
亀井至一	東京下谷芸妓小幾	1883 (明治 16)	石版・手彩色・紙	
亀井至一	東京不忍弁天景	1882 (明治 15)	石版・紙	
	亀井家伝来資料からスケッチブック4点			亀井よし子氏寄贈
	亀井家伝来資料から水彩スケッチ10点			佐藤家兄弟寄贈
蜷川式胤	明治十年徴募巡查不二川ヲ通行スルノ図	1880 (明治 13) 年	混合技法・板	寄託作品
亀井至一	『観古図説』Ⅰ～Ⅳ	1876-77 (明治 9-10)	石版・手彩色・紙/本	
下国巖之助	『観古図説』Ⅴ	1877 (明治 10)	石版・手彩色・紙/本	
印刷局	『国華余芳 伊勢内外神宝之部』	1880 (明治 13)	石版・紙/本	
印刷局	『国華余芳 正倉院御物』	1880 (明治 13)	石版・紙/本	
印刷局	『波間の錦』	1883 (明治 16)	石版・紙/本	
印刷局	『朝陽閣鑑賞』	1883 (明治 16)	石版・紙/本	
印刷局	『朝陽閣鑑賞錦繍帖 卷上』	1883 (明治 16)	木版・紙/本	
印刷局	『朝陽閣鑑賞錦繍帖 卷下』	1883 (明治 16)	木版・紙/本	

展示室3 安藤重春のまなざし



安藤重春《雨の華》

安藤重春は1912(明治45)年に郡山市清水台、安積国造神社の宮司の家に生まれました。旧制安積中学校(現安積高等学校)を卒業後、東京美術学校(現東京藝術大学)日本画科へ進学し、結城素明や小泉勝爾の指導を受けるとともに、一年先輩の高山辰雄に私淑しました。

終戦後、安藤は生家の神社脇に安積幼稚園を設立、あさか児童画クラブを創設し、幼児教育と児童画教育にも携わると同時に、日展を舞台に活躍しました。幼稚園の子どもたちの日常を、温かいまなざしをもって描いた作品も少なくありません。日本画家として長年にわたり活躍した安藤の画業と功績を振りかえってみたいと思います。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
安藤重春	笹	1932-37 (昭和 7-12) 頃	岩絵具・絹	安藤重春氏寄贈
安藤重春	あんず	1932-37 (昭和 7-12) 頃	岩絵具・絹	安藤重春氏寄贈
安藤重春	妙法寺仁王門	1932-37 (昭和 7-12) 頃	岩絵具・絹	安藤重春氏寄贈
安藤重春	橋	1969 (昭和 44)	岩絵具・紙	安藤重春氏寄贈
安藤重春	帰去来	1972 (昭和 47)	岩絵具・紙	
安藤重春	山間	1974 (昭和 49)	岩絵具・紙	安藤重春氏寄贈
安藤重春	レッスン	1977 (昭和 52)	岩絵具・紙	安藤重春氏寄贈
安藤重春	水道	1977 (昭和 52)	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤重春	雨の華	1979 (昭和 54)	岩絵具・紙	
安藤重春	庭隅	1985 (昭和 60) 頃	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤重春	餃	1987 (昭和 62) 頃	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤重春	虫	1990 (平成 2)	岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤重春	バス		岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈
安藤重春	犬声		岩絵具・紙	安藤ヒサヨ氏寄贈

展示室 4-① イギリス版画の世界



トマス・ガーティン
《エア川沿いのカークストール修道院》

一口に版画と言っても、その主題や技法はさまざまです。18世紀後半から19世紀前半にかけて、ターナーの崇高な自然やコンスタブルの味わい深い風景、ブレイクやパーマーの神秘的で幻想的な創造世界が、銅版の精緻な描写によって巧みに表現されました。

19世紀末から20世紀になると、さらに多様な展開を見ることができます。ホイッスラーは日本美術から大きな影響を受け、独自の画風を確立したことで知られています。そのほか、版画の独特な力強い線、白と黒の単純な構成による大胆な構図、抽象性の高い作品も数多く生み出されました。

版画の中に広がるそれぞれの豊かな世界をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ポール・サンドビー	カーナーヴォン城	1776	アクアチント、エッチング
トマス・ガーティン	エア川沿いのカークストール修道院	1824	メゾチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ベン・アーサー	1819	エッチング、メゾチント
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ストーンヘンジ	1829	エッチング、ラインエングレーヴィング
ジョン・コンスタブル	荒野（ヒース）	1831	メゾチント
ジョン・コンスタブル	水浴びをする人たち、ハムステッド	1845 以前	メゾチント
ジョン・クローム	枯れた檜の木沿いの道	1813 頃	エッチング
ジョン・セル・コットマン	カストール城	1815	エッチング
ウィリアム・ブレイク	『ヨブ記』挿絵より1点	1825	ラインエングレーヴィング
ウィリアム・ブレイク	ダンテの『神曲』のための連作より1点	1826-27	ラインエングレーヴィング、ドライポイント
ジョン・マーティン	光の創造	1825	メゾチント
ジョン・マーティン	墜落した天使たちを呼び覚ますサタン	1825	メゾチント
サミュエル・パーマー	クリスマス（最後の羊を囲う）	1850	エッチング
サミュエル・パーマー	生命の朝	1860-61 着手	エッチング
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	寝床での読書	1858	エッチング
ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	ランプの明かりでの読書	1858-59	エッチング、ドライポイント
ウォルター・シッカート	古風な考えの私の母	1928 頃	エッチング
テオドール・ルーセル	門、チェルシー		エッチング、ドライポイント
ジョン・ナッシュ	荷車に積まれた干草	1920	木口木版
ポール・ナッシュ	天空創造	1924	木口木版
ロバート・ギビングス	ベンキ屋	1921	木口木版
エドワード・ウォズワース	乾ドック内の迷彩船	1918	木版
エリック・ギル	キリストと両替屋	1929	木口木版
エリック・ギル	ゲッセマネの園におけるキリストの苦悶	1926	木口木版
デイヴィッド・ジョーンズ（画・刻）	チェスター劇「大洪水」のための9点の挿絵集より1点	1927	木口木版
ディエル兄弟（刻）	『イギリス風景画集』	1863	木口木版/本
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ（画）	W. モリス『世界の果ての泉』	1896	木口木版/本
アーサー・ジョゼフ・ギヤスキ（画）	S. ペアリング・グールド編『童謡集』	1895	木口木版/本

展示室 4-② 佐藤潤四郎とガラス



佐藤潤四郎《オブジェ・羊車》

ガラスは光を反射して美しいきらめきを放ちます。ガラスは実用的であると同時にそのきらめきによって私たちの心を和ませてくれます。

郡山市出身のガラス工芸家・佐藤潤四郎（1907・明治40-1988・昭和63）はクリスタルガラス工芸界で活躍した作家です。彼がデザインした数々のガラス作品は気品と温もりに満ち、多くの人々に愛されてきました。

今回は、花器やワイングラス、タンブラーやウィスキーボトル、舎利器やオブジェなど、佐藤潤四郎が手がけた多様なガラス作品をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	ステンドグラス・仏足跡		ガラス、鉄	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941 (昭和 16) 頃	ガラス/宙吹	石井謙治氏寄贈
佐藤潤四郎	花器・穴があいてちょっと考えた	1980-82 (昭和 55-57) 頃	ガラス/宙吹・カット	
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器 (顔)	1986 (昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	鍛鉄吹込花器・灯もつけて	1986 (昭和 61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤潤四郎	クリスタル花器		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器・仏足跡ロータス		ガラス/宙吹・サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	葡萄文ワイングラス		ガラス/宙吹・グラヴェール	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	植物文瓶		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤潤四郎	瓶・ガラスの神様		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	大杯・ガラスを吹く人	1986 (昭和 61)	ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	水指 (魚)	1986 (昭和 61)	ガラス/型吹	
佐藤潤四郎	花器 (カレット入り)		ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎デザイン/カガミクリスタル制作	ウiskiボトル『インペリアル』		ガラス/機械生産	サントリー (株) 提供
佐藤潤四郎	灰皿		ガラス/型押し	
佐藤潤四郎	魚 (オレンジ)	1973-76 (昭和 48-51) 頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972 (昭和 47) 頃	ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	オブジェ・魚拓	1972 (昭和 47) 頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤潤四郎	花器 (グリーン)		ガラス/宙吹	
佐藤潤四郎	花器・アダムとイヴ		ガラス/宙吹・サンドブラスト	
佐藤潤四郎	花器・ちょっと考えて (樹)		ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤潤四郎	オブジェ・仏足跡	1984 (昭和 59) 頃	ガラス/サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・手	1984 (昭和 59) 頃	ガラス/サンドブラスト	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー		ガラス/型吹	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎デザイン/カガミクリスタル制作	『スーパーニッカ』手吹きボトル	1962 (昭和 37) 頃	ガラス/宙吹	川崎清氏寄贈
佐藤潤四郎	オブジェ・羊車	1980-82 (昭和 55-57) 頃	ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺西塔舎利小容器 (試作)		ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺西塔舎利器 (試作)	1978 (昭和 53)	ガラス/宙吹・グラヴェール	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舎利器 (控) No.1	1980 (昭和 55)	ガラス/宙吹・カット	
佐藤潤四郎	奈良・薬師寺玄奘三蔵院舎利器カパー (控) No.1	1984 (昭和 59)	ガラス/宙吹・プランツ、雲母封入	

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
● 1 階				
笠置季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
● 2 階展示ロビー				
木内 克	露柱	1976 (昭和 51)	テラコッタ	
西 常雄	藤原義江像	1971 (昭和 46)	ブロンズ	
柳原義達	黒人の女	1956 (昭和 31)	ブロンズ	
高田博厚	アラン像	1932 (昭和 7)	ブロンズ	
● 前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	